

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

特集 「連合」の結成と労働戦線

「連合」の結成と労働戦線

5 同盟

3 同盟、「発展的解散」で再出発

同盟は、八七年十一月十九日、東京・厚生年金会館で開かれた同盟第二四回臨時全国大会で三年の歴史の幕を閉じた。解散大会ではあったが、一月の「解体決定」大会と比べ、代議員の表情も明るく、提出された案件はすべて拍手で承認された。

宇佐美会長は、会長あいさつのなかで、「同盟が解散という不退転の決意をもって、『連合』結成に対応したことは重要な意義をもっている」とし、「同盟運動のかかげてきた自由にして民主的労働運動が、『連合』のなかで生かされ、継承されるものと判断したからである」と述べた。また、「わが国が、今日先進工業国になり得たのには、色々な要因はあるが、その重要な要因の一つに、労働者の勤勉、良き労使関係があげられている。そのために同盟が果たしてきた役割は非常に大きいものがある」、「生産性向上に積極的に対応、経営参加と労使協議制の充実も進めてきた。労働条件の改善にあたっては、国民経済との整合性の関係を尊重してきた。国の制度・政策改善に対しても、審議会への積極参加と建設的提言を行ってきた」、「また、労働組合として堂々と日の丸の国旗もかかげてきた。左翼労働運動との対決も、明確にしてきた」と、同盟運動を回顧し、「今後もこの理念、方針を労働界に定着させよう」と発展的解散を強調した。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)